

**あいであ & アイデア**

**(株)三重加藤牧場の取り組み ①フォークリフトを利用した給餌機**

(一社)三重県畜産協会 谷口 萌子

三重県四日市市で1000頭を超える規模の黒毛和牛一貫経営を営む(株)三重加藤牧場では、「作業を効率よく行うこと、作業員による作業のムラがないこと」を追求しています。また、牛舎にハエが見当たらないなど、より牛がリラックスできる環境づくりに努めています。本稿では、3回にわたり(株)三重加藤牧場の省力化等の取り組みを紹介します。

**フォークリフトの油圧を動力にした給餌機**

同牧場では、フォークリフトを利用した2種類の給餌機を考案し、実際に活用しています。1つ目は、フォークリフトの油圧を動力に、濃厚飼料と粗飼料を混合した飼料を与えるものです。フォークリフトを利用しているため、餌場の高さに合わせてリフトの高さを調整し、給餌することができます。

粗飼料と濃厚飼料を別々に人の手で給与すると、給与量に個人差が出てしまうため、これを混合して誰がやっても同じ配合で給餌できることを考え、このような給餌機を考案しまし



フォークリフトを利用した給餌機



この中で混合しながら給餌します



フォークリフトを操作する加藤さん



初代軽トラ給餌機

た。初代給餌機は、軽トラの上に攪拌機を乗せ、田植え機のエンジンで動かすもので、計量した濃厚飼料を攪拌し、直接飼槽へと運び給与しました。押し車に入れて運びバケツで給与していたころに比べ、格段に省力化できたそうです。現在は、粗飼料と濃厚飼料を攪拌してTMRとし、フォークリフトで

給与しています。

乳牛によく利用されるTMRは、和牛にも効果的だと加藤さんは考えています。粗飼料と濃厚飼料を混ぜることで、牛はエサを選び好みせずに食べることができるため、肉質のばらつきをなくして均一化する効果があるとのこと。

また、残った飼料は、業務用の掃除機（スイーパー）で吸い取り、ほうきでの掃除は行っていません。ここでも、省力化を実現するとともに作業によるムラをなくし、牛舎内を隅々まで清潔に保っています。

### フォークリフトでロールを解体しながら給餌を行う給餌機

2つ目は、粗飼料のロールを解体しながら給餌を行う給餌機です。固く巻かれたロールは、手でほぐすと30分程かかり、時間だけでなく多大な労力も要します。

そこで、くるくる巻かれたロールは、逆回転させれば簡単にほぐけるのでは、と考えました。利用したのはエレベーターワゴン後部の刈り取った草をかき出す部分で、そこにロールをあて、ほどこしながら給与できるよう角度を調整しました。これを利用すると、通路を走る間に、ロールを

ほどこしながら餌場へと運べるので、作業時間を大幅に短縮することができました。

また、フォークリフトを使用するため、通路にロールを置いておく必要がなく、牛舎を綺麗に保つことができ、作業性も向上しています。



フォークリフトのロールほぐし機



ほぐしながら給餌中



あっという間に終了！



天井に上げられたロール

(筆者 (一社)三重県畜産協会 価格対策課 主事)